効果は期待できない状況にある．

今回の各シンポジストの発表も，それを裏付けるように，それぞれの病院における臨床検査部門運営に病院全体としての創意工夫が施され，結果として複雑多岐にわたる状況が確認された．

当然のことながら，各運用方式にはそれぞれにメリットとデメリットの両面が存在し，一概にどの方式が最良であるとの判断を下すことは困難なようである．

大切なことは，各病院が独自に，医療の質を担保し多角的かつ詳細な検証作業を行い，自施設に最も適した運用形態を病院全体の総意として慎重に方針決定することである．

さらに重要なことは，運用方式の変更により，病院の顧客である患者へのサービス低下，すなわち検査の質低下を招いてはならない．

（注）シンポジストの所属施設表示は，本シンポジウム開催時点のものです．

本稿は第62回国立病院総合医学会にて発表した内容に加筆したものである．

今月の用語　隣に伝えたい新たな言葉と概念

英　**Facility Management Service**

略　**FMS**

FMS（Facility Management Service）とは，ブランチラボ（院内委託検査）と並ぶ臨床検査部門におけるアウトソーシング運営方式のひとつで，もともとは近年の医療経済の急速な悪化を受けて，外資系臨床検査機器メーカーが提案したリース販売方式の一種であるが，最近では衛生検査所（検査センター）や試薬卸業者の参入が目立つ．具体的には，契約業者から生化学や血液などの自動分析装置や検査試薬等の一括提供を受け，医療機関が業者へ検査実施に応じて診療報酬収入額を配分（支払い），または契約単価により検査件数に応じて支払うものである．検査自体は，医療機関職員（臨床検査技師等）が行う．

FMS 方式のメリット

1．検査機器や検査システムの導入時や更新時の投資費用が軽減される．
2．自主運営の一方式であるため，院内職員（臨床検査技師等）により従来同様の検査の質（患者サービス）が確保される．
3．民間企業（契約業者）のスケールメリットを活かした，運営コストダウン（費用削減）が期待できる．

FMS 方式のデメリット

1．基本的には，検査機器や試薬の選択権が契約業者に委ねられる（経済性優先）ため，必ずしも医療機関側が求める検査体制とはなり得ないことから，院内職員（臨床検査技師等）のモチベーション低下が懸念される．
2．一般的には長期間契約（通常５年間程度が多い）となるため，経済的なリスク（短期間の診療報酬改定や金利変動などへの臨機応変な対応が困難）が生じやすい．

〈関連用語〉臨床検査部門アウトソーシング，ブランチラボ

（奥田　勲）本文99p に記載